

脊椎圧迫骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)

名前		
病院内ID		
切取線		
病院名		
病院コード		
研究調査用コード(登録ID)		*患者様を特定するのに必要ですので必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女	
生年月日	(明治, 大正, 昭和, 平成) 年 月 日	
入院の有無	1. あり 2. なし	
入院日	平成__年__月__日	
手術日	平成__年__月__日	
退院日	平成__年__月__日	
主な診断方法(※1)	1. X線単純像 2. 臨床所見 3. MRI 4. 骨シンチ 5. その他	
骨折型	1. 単純圧迫骨折 2. 後壁損傷あり 3. posterior columnに及ぶ不安定骨折	
主な治療法	1. ギブス 2. コルセット 3. 椎体形成術 4. その他の手術	
骨粗鬆症薬の服用状況	1. 骨折前から服用 2. 骨折後に新たに投与 3. 骨折後も投与なし	
※1: 初診時にご記入いただいていない場合のみご記入ください。		
<p>脊椎圧迫骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)</p> <p style="text-align: right;">           &lt;連絡先&gt; 公立玉名中央病院整形外科内            日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局            E-mail: nakano@tamana-chp.jp         </p>		

図 V-3. 脊椎圧迫骨折調査シート2 (退院時あるいは4-8週経過時用)

様

〈背椎圧迫骨折〉
所属コード
登録ID

アンケート記入日 平成 年 月 日

アンケート記入者

1. ご本人 2. ご家族 3. スタッフ 4. その他

※下記の質問にお答えください。

Q1 骨折したその背骨はその後手術を受けましたか？

1. はい 2. いいえ

Q2 その後にどこかの骨折をしましたか？

1. はい 2. いいえ

※「はい」の場合はどこですか？ 上の図の該当する所に○をお付け下さい。



Q3 その後に入院治療した、あるいは運送した病室、ケガはありましたか？

1. ある 2. ない ※「ある」の場合 → ( )

Q4 現在の胸背痛、下肢へびく痛みは？

1. 全く痛くない  
2. 立ったり座ったりした時に少し痛いことがある  
3. 中等度の痛みがある  
4. 強い痛みが常時または、頻りにある

Q5 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい。)

1. 自力では運送しにくい  
2. 運送したが、自力で運送がつかうことができる  
3. 助けをもらって車いすに乗ることができる  
4. 自分で車いすに乗ることができて、食事時はベルトかめ覆わねで行う  
5. 外出の頻度は少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている  
6. 誰かに付き添ってもらって外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する  
7. 隣室へなら一人で外出する  
8. 交通機関を利用して一人で外出する

Q6 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい。)

1. 食事をしたことも忘れてしまったり子どもの忘れがひどく、体が不自由で、専門的な治療を必要としている  
2. もの忘れや動機いけが非常に多く、日常生活に支障をきたすような症状が頻りに夏れ、常に介護を必要とする  
3. もの忘れや動機いけが非常に多く、日常生活に支障が殆ど、介護を必要とする  
4. もの忘れや動機いけが多いが、誰かが注意していれば一人でできる  
5. もの忘れは多いが、日常生活は何でも一人でできる  
6. 何でも一人でできる

Q7 現在のお住まいはどちらですか？

1. 自宅などの一般住宅 2. 介護施設 3. 病院

Q8 もしもご亡くなった場合その年月日を記入して下さい。

→ 平成 年 月 日

ご協力ありがとうございました。

図 V-4. 背椎圧迫骨折調査シート3 (12ヶ月経過時用)

橈骨遠位部骨折調査シート1(初診時用)	
名前	
病院内ID	
切取線	
病院名	
病院コード	
研究調査用コード(登録ID)	*各施設で患者様にコードをつけ、必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女
生年月日	(明治,大正,昭和,平成) 年 月 日
骨折年月日	平成 年 月 日
初診日	平成 年 月 日
受傷側	1. 右 2. 左
利手	1. 右 2. 左
骨折型	1. 関節外 2. 関節内
受傷場所	1. 不明 2. 一般住宅屋内 3. 施設・病院などの屋内 4. 屋外 5. 交通機関内
受傷前の主な生活場所	1. 自宅などの一般住宅 2. 病院 3. 介護施設など
受傷の原因	1. 転倒 2. 転落 3. 交通事故 4. その他
受傷前の日常生活自立度	1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する 3. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 4. 外出の頻度は少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている 5. 車いすに移乗し、食事排せはベッドから離れて行う 6. 介助により車いすに移乗する 7. 自力で寝返りをうつ 8. 自力では寝返りも出来ない 9. 不明
受傷前の認知能力	1. 正常 2. 何らかの痴呆を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している 3. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる 4. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難が見られ、介護を必要とする 5. 日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする 6. 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
橈骨遠位部骨折調査シート1(初診時用)	<連絡先> 公立玉名中央病院整形外科内 日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局 E-mail: nakano@tamara-chnp.jp

図 V-5. 橈骨遠位部骨折調査シート1 (初診時用)

橈骨遠位部骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)

名前		
病院内ID		
----- 切取線 -----		
病院名		
病院コード		
研究調査用コード(登録ID)		*患者様を特定するのに必要ですので必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女	
生年月日	(明治,大正,昭和,平成) 年 月 日	
入院の有無	1. あり 2. なし	
入院日	平成 年 月 日	
手術	1. あり 2. なし	
手術日	平成 年 月 日	
退院日	平成 年 月 日	
主な治療法	1. 保存 2. ピンニング 3. 創外固定 4. 内固定	
骨粗鬆症薬の服用状況	1. 骨折前から服用 2. 骨折後に新たに投与 3. 骨折後も投与なし	
<p>橈骨遠位部骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)</p> <p style="text-align: right;">           &lt;連絡先&gt; 公立玉名中央病院整形外科内            日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局            E-mail:nakano@tamara-chp.jp         </p>		

図 V-6. 橈骨遠位部骨折調査シート 2 (退院時あるいは 4-8 週経過時用)

様

調査記入者	
病院コード	
登録ID	

アンケート記入日 平成 年 月 日

アンケート記入者  
1. ご本人 2. ご家族 3. スタッフ 4. その他

※下記の質問にお答えください。



問1 骨折した手首はその後手術を要しましたか？  
1. はい 2. いいえ

問2 その腕にどこかの骨折を要しましたか？  
1. はい 2. いいえ

\*「はい」の場合はどこですか？ 上の図の該当する所に○をお付け下さい。

問3 その腕に入居後働いた、あるいは運送した荷物の重さはありますか？  
1. ある 2. ない \*「ある」の場合 → ( )

問4 骨折した手は骨折する前と同じように使えますか？  
1. 同じように使える 2. 少し不自由になった  
3. 不自由になってあまり使わなくなった

問5 痛みはどのようですか？  
1. 全く痛くない 2. 重い物を持った時に少し痛いことがある  
3. 中程度の痛みがある 4. 安静時も痛みがある

問6 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい。)

- 自力では運動もできない
- 運送時だが、自力で運送ができている
- 動かすだけでも、車いすに乗る
- 自分で車いすに乗ることができ、食事排泄はベッドから離れて行う
- 外出の頻度は少なく、日中も寝たままの状態
- 誰かに付添ってもらって外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する
- 隣近所へのみ一人で外出する
- 交通機関を利用して一人で外出する

問7 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい。)

- 食事をしたことも忘れてしまっている
- もの忘れや動揺が多く、日常生活に支障を来たすような症状が頻りに見られ、常に介護を必要とする
- もの忘れや動揺が非常に多く、日常生活に支障があり、介護を必要とする
- もの忘れや動揺は多いが、誰かが注意していれば一人でできる
- もの忘れは多いが、日常生活は一人でできる
- 何でも一人でできる

問8 現在お住まいはどちらですか？

- 自宅などの一般住宅
- 介護施設
- 病院

問9 もしお亡くなりになっている場合はその年月日を教えて下さい。

→ 平成 年 月 日

ご協力ありがとうございます。

図 V-7. 橈骨遠位部骨折調査シート3 (12ヶ月経過時用)

上腕骨近位部骨折調査シート1(初診時用)	
名前	
病院内ID	
----- 切取線 -----	
病院名	
病院コード	
研究調査用コード(登録ID)	*各施設で患者様にコードをつけ、必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女
生年月日	(明治,大正,昭和,平成) 年 月 日
骨折年月日	平成 年 月 日
初診日	平成 年 月 日
受傷前の主な生活場所	1. 自宅などの一般住宅 2. 病院 3. 介護施設など
受傷場所	1. 不明 2. 一般住宅屋内 3. 施設・病院などの屋内 4. 屋外 5. 交通機関内
受傷の原因	1. 転倒 2. 転落 3. 交通事故 4. その他
受傷前の日常生活自立度	1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する 3. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 4. 外出の頻度は少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている 5. 車いすに移乗し、食事排泄はベッドから離れて行う 6. 介助により車いすに移乗する 7. 自力で寝返りをうつ 8. 自力では寝返りも出来ない 9. 不明
受傷前の認知能力	1. 正常 2. 何らかの痴呆を有するが、日常生活は家庭内及び社会的には自立している 3. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる 4. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難が見られ、介護を必要とする 5. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする 6. 深い精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
上腕骨近位部骨折調査シート1(初診時用)	<p style="text-align: right;">&lt;連絡先&gt; 公立玉名中央病院整形外科内 日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局 E-mail: nekano@tamana-chp.jp</p>

図 V-8. 上腕骨近位部骨折調査シート1(初診時用)

上腕骨近位部骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)

名前		
病院内ID		
----- 切取線		
病院名		
病院コード		
研究調査用コード(登録ID)		*患者様を特定するのに必要ですので必ずご記入ください。
性別	1. 男 2. 女	
生年月日	(明治,大正,昭和,平成)____年__月__日	
入院の有無	1. あり 2. なし	
入院日	平成____年__月__日	
手術	1. あり 2. なし	
手術日	平成____年__月__日	
退院日	平成____年__月__日	
骨折型		*可能ならご記入ください。
主な治療法	1. 保存 2. ピンニング 3. 創外面固定 4. 内固定 5. 人口骨頭置換	
骨粗鬆症薬の服用状況	1. 骨折前から服用 2. 骨折後に新たに投与 3. 骨折後も投与なし	

上腕骨近位部骨折調査シート2(退院時あるいは4-8週経過時用)

<連絡先> 公立玉名中央病院整形外科内  
 日本整形外科学会骨粗鬆症委員会事務局  
 E-mail: rakano@tamama-chp.jp

図 V-9. 上腕骨近位部骨折調査シート 2 (退院時あるいは 4-8 週経過時用)

様

〈所属記入欄〉
所属コード
登録ID

アンケート記入日 平成 年 月 日

アンケート記入者

1. ご本人    2. ご家族    3. スタッフ    4. その他

※下記の間隔にお答えください。

問1 骨折した肩はその最手術を受けましたか？

1. はい    2. いいえ

問2 その腕にどこかの骨折をしましたか？

1. はい    2. いいえ

※「はい」の場合はどこですか？

問3 その腕に入院治療した、あるいは入院した病気の腕はありますか？

1. ある    2. ない    ※「ある」の場合 → ( )

問4 骨折した手は骨折する前と同じように使えますか？

1. 同じように使える    2. 少し不自由になった  
3. 不自由になってあまり使わなくなった

問5 痛みはどの程度ですか？

1. 全く痛くない    2. 重い物を持った時に少し痛いことがある  
3. 中程度の痛みがある    4. 安静時も痛みがある



上の図の該当する所に○をお付け下さい。

問6 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい)

1. 自力では寝返りができない。
2. 寝たきりだが、自力で寝返りをうつことができる。
3. 助けてもらって寝やすい。
4. 自分で寝やすいにできることかできて、食事排泄はベッドから離れて行う。
5. 外出の頻度は少なく、日中は誰か1人の介護を受けている。
6. 誰かに付き添ってもらって外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。
7. 隣近所へなら一人で外出する。
8. 交通機関を利用して一人で外出する。

問7 現在の状態についてお尋ねします。(該当するもの一つに○をお付け下さい)

1. 食事をしたことも忘れてしまったりするほど忘れがひどく、体が不自由で、専門的な治療を必要としている。
2. もの忘れや動揺が非常に多く、日常生活に支障を来すような症状が頻りに見られ、常に介護を必要とする。
3. もの忘れや動揺が非常に多く、日常生活に支障があり、介護を必要とする。
4. もの忘れや動揺は多いが、誰かが注意していれば一人でできる。
5. もの忘れは多いが、日常生活は何でも一人でできる。
6. 何でも一人でできる。

問8 現在お住まいはどちらですか？

1. 自宅などの一般住宅    2. 介護施設    3. 病院

問9 もしおにけりになっていいる場合はその年月日を記入して下さい。

一 平成 年 月 日

ご協力ありがとうございました。

図 V-10. 上肢骨連位部骨折調査シート3 (12カ月経過時用)



<VI. 高齢骨折患者の骨代謝動態の検討 図表>

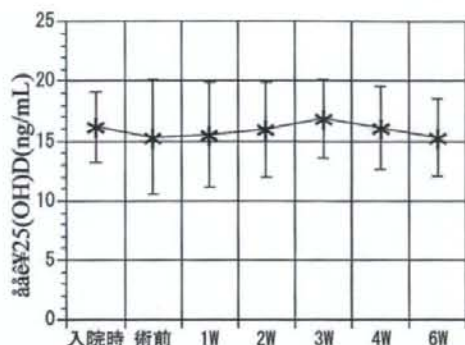


図 VI-1 血清 25(OH)D の入院中経時的変動

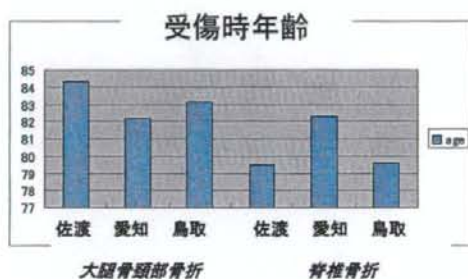


図 VI-2

図1

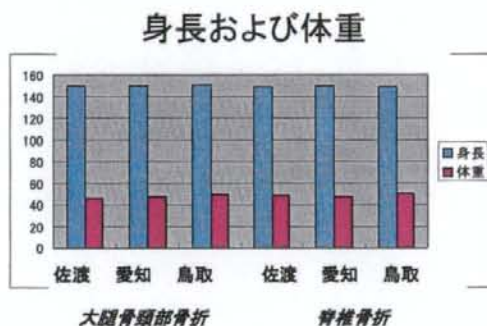


図 VI-3

図2

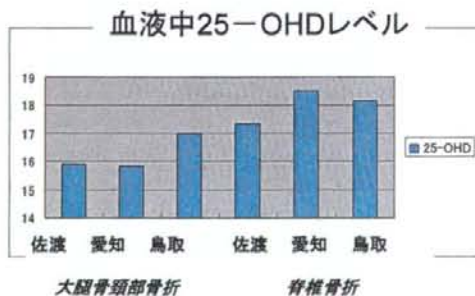


図 VI-4

図3



図 VI-5

図4

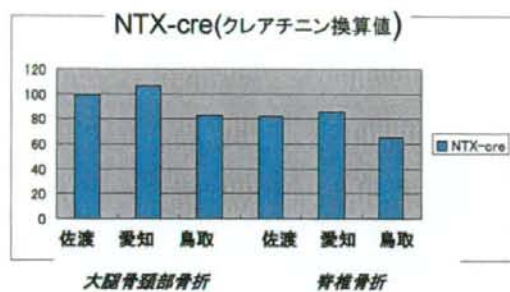


図5  
図 VI-6

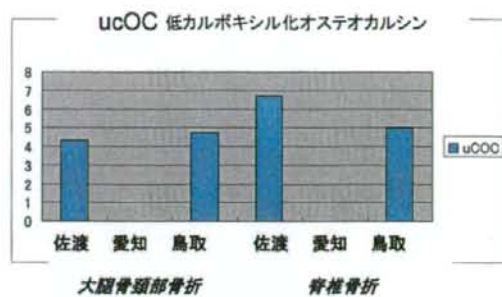


図6  
図 VI-7

<Ⅶ. 骨折治療患者の骨粗鬆症治療実態調査 図表>

表 VII-1

表1 アンケート回答者の背景

	2006年		1996年	
	N	741	544	
1. 性別				
男性	704	( 95.0% )	509	( 93.6% )
女性	29	( 3.9% )	13	( 2.4% )
記載無し	8	( 1.1% )	22	( 4.0% )
2. 年齢				
25歳以下	0	( 0.0% )	2	( 0.4% )
26-29歳	12	( 1.6% )	28	( 5.1% )
30-39歳	194	( 26.2% )	168	( 30.9% )
40-49歳	246	( 33.2% )	170	( 31.3% )
50-59歳	169	( 22.8% )	86	( 15.8% )
60-69歳	54	( 7.3% )	70	( 12.9% )
70歳以上	66	( 8.9% )	19	( 3.5% )
記載無し	0	( 0.0% )	1	( 0.2% )
3. 大学卒業後年数				
2年未満	0	( 0.0% )	5	( 0.9% )
2-4年	12	( 1.6% )	39	( 7.2% )
5-9年	73	( 9.9% )	61	( 11.2% )
10-19年	272	( 36.7% )	206	( 37.9% )
20-39年	297	( 40.1% )	182	( 33.5% )
40年以上	87	( 11.7% )	37	( 6.8% )
記載無し	0	( 0.0% )	14	( 2.6% )
4. 日整会専門医				
専門医	639	( 86.2% )	436	( 80.1% )
非専門医	102	( 13.8% )	104	( 19.1% )
記載無し	0	( 0.0% )	4	( 0.7% )
5. 勤務				
一般病院勤務	349	( 47.2% )	238	( 43.6% )
大学病院勤務	86	( 11.6% )	96	( 17.6% )
開業医	271	( 36.6% )	190	( 34.8% )
研究施設	10	( 1.4% )	1	( 0.2% )
行政職	1	( 0.1% )	3	( 0.5% )
不明・その他	24	( 3.1% )	16	( 3.3% )
6. 骨粗鬆症に対する興味				
常にある	262	( 35.4% )	152	( 27.9% )
割とある	216	( 29.1% )	203	( 37.3% )
普通	211	( 28.5% )	144	( 26.5% )
あまりない	46	( 6.2% )	42	( 7.7% )
全くない	4	( 0.5% )	2	( 0.4% )
記載無し	2	( 0.3% )	1	( 0.2% )
7. 骨粗鬆症の診療患者数(1週当たり)				
10人未満	115	( 15.5% )	20	( 3.7% )
10-49人	433	( 58.4% )	82	( 15.1% )
50-99人	108	( 14.6% )	125	( 23.0% )
100-199人	53	( 7.2% )	146	( 26.8% )
200人以上	26	( 3.5% )	169	( 31.1% )
記載無し	6	( 0.8% )	2	( 0.4% )



表3 日常診療における骨粗鬆症患者の治療について

1) 骨粗鬆症の治療では	N= 733		積極的にあまり積極的に行われない		全く治療は行わない						
	1996年結果	907	124	2							
2) 治療目的は(複数回答)	除痛	骨量増加	骨折予防	ADL, GO							
1996年結果	( 63.3% )	( 82.8% )	( 16.9% )	( 0.8% )							
	448	454	616	284							
	60.5%	61.3%	83.1%	38.3%							
1996年結果	( 96.5% )	( 72.4% )	( — )	( — )							
3) 選択する治療薬(複数回答) (薬物投与を行っている方のみ)	Ca	E	D3	CT	IPF	K	蛋白同化 ホルモン	BIS(ED)	BIS(ALD, RIS)	SERM (RLX)	その他
1996年結果	( 59.4% )	( 8.5% )	( 90.3% )	( 84.4% )	( 25.9% )	( 47.6% )	( 3.3% )	( 8.5% )	( — )	( — )	( 0.9% )
	316	71	609	405	24	225	7	234	655	355	14
	42.5%	9.6%	82.2%	54.7%	3.2%	30.4%	0.9%	31.6%	88.4%	47.9%	1.9%
	59.4%	8.5%	90.3%	84.4%	25.9%	47.6%	3.3%	8.5%	—	—	0.9%
4) 薬剤選択に当たって考慮するのは (複数回答)	骨密度	骨代謝 マーカー	年齢	既往骨折	薬価	疼痛	骨折予防 効果	副作用	その他		
1996年結果	( 66.5% )	( 35.1% )	( 51.6% )	( 31.4% )	( 5.3% )	( 42.4% )	( 37.9% )	( 40.9% )	( 4.9% )		
	493	260	382	233	39	314	281	303	36		
	66.5%	35.1%	51.6%	31.4%	5.3%	42.4%	37.9%	40.9%	4.9%		
5) 主に単剤か多剤か	N= 692	単剤	多剤								
1996年結果	( 13.3% )	( 39.3% )	( 60.7% )								
	272	420									
	39.3%	60.7%									
多剤で最も多いのは	N= 443	2剤	3剤	4剤以上							
1996年結果	( 66.6% )	( 33.4% )	( 24.2% )	( 0.5% )							
	299	147	81	2							
	40.4%	41.2%	22.7%	0.5%							
6) 併用投与する場合、組み合わせが多い2剤	D3+BIS (ALD, RIS)	Ca+D3	D3+CT								
1996年結果	( 77.0% )	( 41.2% )	( 22.7% )								
	275	147	81								
	77.0%	41.2%	22.7%								
治療効果は同一によって判定されますか(最も適当なもの)(複数回答)	疼痛の改善	骨量増加	骨代謝マーカー	新規骨折抑制	その他						
1996年結果	( 40.4% )	( 60.9% )	( 23.3% )	( 8.4% )	( 2.2% )						
	299	451	173	62	16						
	40.4%	60.9%	23.3%	8.4%	2.2%						

Ca カルシウム製剤, E エストロゲン, D3 活性型ビタミンD<sub>3</sub>, CT カルシトニン, IPF イブリゾロン, K ビタミンK<sub>2</sub>, BIS ビスファスファート製剤, ED エトドロネート, ADL アドナロネート, RIS リゼロネート, SERM 選択的エストロゲン受容体モジュレーター, RLX ラロキシフェン

表 VII-3 日常診療における骨粗鬆症患者の治療について

表4 骨折患者の治療、骨粗鬆症について

1. 大腿骨頸部・転子部骨折患者の術後の治療について		骨粗鬆症治療薬の投与を行うか		どちらともいえない	
行う	行わない	行う	行わない	行う	行わない
N= 704	N= 704	N= 704	N= 704	N= 704	N= 704
357 (50.7%)	87 (12.4%)	357 (50.7%)	87 (12.4%)	260 (36.9%)	31 (4.4%)
1996年結果 ( 39.9% )	24.5%	1996年結果 ( 39.9% )	24.5%	35.6%	8.3%
選択する薬剤(上位5剤)		選択する薬剤(上位5剤)			
BIS (ALD, RIS)	D3	BIS (ALD, RIS)	D3	CT	Ca
82.5%	80.5%	82.5%	80.5%	31.6%	29.4%
					RLX
					28.8%
2. 骨粗鬆症の圧迫骨折による背髄麻痺症例の経験		2. 骨粗鬆症の圧迫骨折による背髄麻痺症例の経験		2. 骨粗鬆症の圧迫骨折による背髄麻痺症例の経験	
N= 720	N= 720	N= 720	N= 720	N= 720	N= 720
418 (58.1%)	302 (41.9%)	418 (58.1%)	302 (41.9%)	418 (58.1%)	302 (41.9%)
1996年結果 ( 42.3% )	57.7%	1996年結果 ( 42.3% )	57.7%	418 (58.1%)	302 (41.9%)
3. 今後高齢化が進むにあたって整形外科において骨粗鬆症は		3. 今後高齢化が進むにあたって整形外科において骨粗鬆症は		3. 今後高齢化が進むにあたって整形外科において骨粗鬆症は	
N= 729	N= 729	N= 729	N= 729	N= 729	N= 729
657 (90.1%)	40 (5.5%)	657 (90.1%)	40 (5.5%)	32 (4.4%)	32 (4.4%)
1996年結果 ( 75.4% )	16.3%	1996年結果 ( 75.4% )	16.3%	8.3%	8.3%
4. 骨粗鬆症健診・骨ドックなど啓発活動に参加されたことがあるか		4. 骨粗鬆症健診・骨ドックなど啓発活動に参加されたことがあるか		4. 骨粗鬆症健診・骨ドックなど啓発活動に参加されたことがあるか	
N= 729	N= 729	N= 729	N= 729	N= 729	N= 729
200 (27.4%)	529 (72.6%)	200 (27.4%)	529 (72.6%)	200 (27.4%)	529 (72.6%)
1996年結果 ( 32.2% )	67.8%	1996年結果 ( 32.2% )	67.8%	200 (27.4%)	529 (72.6%)

Ca カルシウム製剤, D3 活性型ビタミンD<sub>3</sub>, CT カルシトニン, BIS ビスホスホネート製剤, ADL アレンドロネート, RIS リゼドロネート, RLX ラロキシフェン

表 VII-4 大腿骨頸部・転子部骨折患者の治療

表 VII-5 大腿骨頸部・転子部骨折後の治療

1) 高齢者の転倒による骨折とその予防に關心があるか		2) 高齢者の転倒による骨折の予防に有意と思われるもの(複数回答)		3) 転倒の予防に有効と考えられるもの(上記で「骨粗鬆症薬」を選んだ方)(複数回答可)。		4) ヒッププロテクターを知っているか		5) ヒッププロテクターで大腿骨頸部・転子部骨折が予防できると思う	
N=	728	N=	728	N=	738	N=	738	N=	723
かなりある	324	骨粗鬆症薬	568	Ca	48	よく知っている	340	かなりできる	73
多少ある	354	栄養指導	191	E	14	ある	182	多少できる	378
あまりない	48	運動指導	663	D3	197	聞いたことがある	198	あまりできない	128
ない	2	ヒッププロテクター	89.5%	CT	44	知らない	18	できない	44
	0.3%	その他	32.9%	PF	4			わからない	102
			4.9%	K	33	蛋白同化ホルモン	8		14.1%
					1.1%	BIS(ED)	83		
					4.5%	BIS(ALD、RIS)	223		
					0.5%	SERM (RLX)	97		
					0.8%	その他	6		
					30.1%	転倒を予防する薬には無効	223		
					9.2%	わからない	68		
					522				

Ca カルシウム製剤, E エストロゲン, D3 活性型ビタミンD<sub>3</sub>, CT カルシトニン, PF イソフラボン, K ビタミンK<sub>2</sub>, BIS ビスホスファネート製剤, ED エチドロネート, ALD アレンドロネート, RIS リゼドロネート, SERM 選択的エストロゲン受容体モジュレーター, RLX ラロキシフェン

<参考資料 VII>

骨粗鬆症に関する整形外科医へのアンケート

下記の質問にお答え下さい。特に指定がない場合は、1つだけ選んで√をして下さい。

1. 年齢： 25歳以下     26-29歳     30-34歳     35-39歳  
 40-49歳     50-59歳     60-69歳     70歳以上
2. 性別： 男性     女性
3. 大学卒業後年数： 2年未満     2-4年     5-9年  
 10-19年     20-39年     40年以上
4. ご勤務は： 一般病院勤務     大学病院勤務     開業医     研究施設  
 行政職     その他
5. 日本整形外科学会： 専門医     非専門医
6. 骨粗鬆症に興味がありますか  
 常に     時々     普通     あまりない     全くない
7. 骨粗鬆症の患者を何人位診察されますか  
1) 外来患者を1週間に  
 10人未満     10-29人     30-49人     50-99人  
 100-199人     200人以上



2) 入院患者を (1カ月に)

a. 腰痛部痛などの有症者

- <sup>a</sup> 10人未満    <sup>b</sup> 10~29人    <sup>c</sup> 30~49人    <sup>d</sup> 50~99人  
<sup>e</sup> 100~199人    <sup>f</sup> 200人以上

b. 骨粗鬆症由来の大腸骨頸部・転子部骨折患者

- <sup>g</sup> 10人未満    <sup>h</sup> 10~29人    <sup>i</sup> 30~49人    <sup>j</sup> 50~99人  
<sup>k</sup> 100~199人    <sup>l</sup> 200人以上

8. あなたの外来で診ている骨粗鬆症患者のうち、骨粗鬆症が1病名の患者の割合 (%) はどれくらいですか?

(                    ) %<sup>m</sup>

9. 骨粗鬆症の診断についてお聞きします。

1) 骨粗鬆症の診断を行う症例において検査者の占める割合は何%ですか

検査者 \_\_\_\_\_ %<sup>n</sup>

2) 骨粗鬆症診断基準(2000年骨代謝学会, 日骨代誌 18:76, 2001 に掲載)を使って診断していますか。

- <sup>o</sup> すべて基準に従って診断している  
<sup>p</sup> ほとんど基準に従って診断している  
<sup>q</sup> 症例によって基準に従って診断している  
<sup>r</sup> ほとんど基準を用いていない  
<sup>s</sup> 全く基準を用いていない

3) この基準の使いやすさはどう考えますか

- <sup>t</sup> 非常に使い易い    <sup>u</sup> 割と使い易い    <sup>v</sup> 普通  
<sup>w</sup> あまり使えない    <sup>x</sup> 全く使えない

4) この診断基準を用いる上でどのような点の問題かをお書き下さい。<sup>88</sup>

5) この診断基準を用いないと答えた先生は、何によって診断を行っておられますか

- <sup>81</sup>臨床症状のみ <sup>82</sup>X線像のみ <sup>83</sup>骨密度値のみ  
<sup>84</sup>その他 ( \_\_\_\_\_ )<sup>85</sup>

10. 骨粗鬆症の診断における骨量計測についてお尋ねします。

1) 先生の施設には骨量計測の専用装置が設置してありますか

- <sup>86</sup>ある <sup>87</sup>ない

「ある」場合その装置は（複数回答可）

- <sup>88</sup>2重エネルギーX線吸収 (Dual X-ray Absorptiometry, DXA) 装置  
<sup>89</sup>全身用または腰椎測定用  
<sup>90</sup>腕骨遠位測定専用  
<sup>91</sup>踵骨測定専用
- <sup>92</sup>手指X線写真を用いた解析装置 (digital image processing (DIP), computed X-ray densitometry (CXD) など)
- <sup>93</sup>末梢骨専用の定量的CT (peripheral quantitative computed tomography, pQCT)
- <sup>94</sup>全身用CTを使用した定量的CT (quantitative computed tomography, QCT)
- <sup>95</sup>超音波法
- <sup>96</sup>その他 ( \_\_\_\_\_ )<sup>97</sup>

2) 骨量計測は

- <sup>17</sup> 診断には必須である (3へ)                      <sup>17</sup> 症例によっては必要 (3へ)  
<sup>18</sup> 診断にはほとんど必要ない (質問 11へ)      <sup>18</sup> 診断には不要である (質問 11へ)  
<sup>19</sup> その他 (質問 11へ)

3) 測定頻度は

概ね \_\_\_\_\_ カ月間隔 程度<sup>20</sup>

4) 骨量計測の測定部位はどこを第 1 に選択されますか

- <sup>21</sup> 腰椎    <sup>21</sup> 大腿骨近位部    <sup>21</sup> 橈骨    <sup>21</sup> 踵骨    <sup>21</sup> 中手骨    <sup>21</sup> 全身  
<sup>21</sup> その他 ( \_\_\_\_\_ )<sup>21</sup>

11. 骨代謝マーカーについてお聞きします。

1) 骨粗鬆症の診療で骨代謝マーカーを使用していますか?

- <sup>22</sup> はい                      <sup>22</sup> いいえ (質問 12へ)

2) 最も多く使用する骨代謝マーカーは以下のいずれですか?

- <sup>23</sup> NTX (尿中)    <sup>23</sup> NTX (血中)    <sup>23</sup> DPD (尿中)    <sup>23</sup> CTX (尿中)  
<sup>23</sup> BAP (血中)

3) NTXやDPDは次のどの場合に、最も有用とお考えになりますか?

- <sup>24</sup> 骨粗鬆症の診断    <sup>24</sup> 骨吸収活性の測定    <sup>24</sup> 全身カルシウム量の測定

12. 日常診療における骨粗鬆症患者の治療についてお聞きします。

1) 骨粗鬆症の治療では

- <sup>25</sup> 積極的に薬物投与により治療を行っている (2へ)  
<sup>25</sup> あまり積極的には薬物治療は行わない (2へ)  
<sup>25</sup> 全く治療は行わない (質問 13へ)

2) 治療目的は (複数回答可)

- <sup>26</sup> 除痛                      <sup>26</sup> 骨量増加                      <sup>26</sup> 骨折予防

